

25年3月16日 宮崎日日新聞

交流を通じ地元愛実感

東京学芸大生が延岡訪問

特別授業として、小学生に新聞を使った工作を指導する東京学芸大の学生(右)



教員などを目標とする上で見識を広げようと、東京学芸大の学生ら12人が延岡市をこのほど訪ね、小学生への特別授業

や中心市街地でのまちあるきを体験した。2泊3日の日程で、地域住民とも交流した。

教授の研究室に所属し、「デザイン文化研修」として年1回ほど全国各地を訪問。九州保

健福祉アドバイザーの読谷山洋司さんと鉄矢准教授が知人という縁で延岡を訪れた。延岡でのスケジュールは読谷山さんが作り、学生は地元企業や島浦島など市内各地を巡った。北浦小(吉野裕喜校長)では、学生が4、5年生60人を相手に特別授業。児童と一緒に新聞紙を丸めて組み合わせ、オブジェのような工作品に仕上げた。

また、地元学生や九保大生の案内でJR延岡駅周辺をまちあるき。その後住民を集めてシンポジウムを開き、延岡の魅力や子どもたちから感じた地元愛について触れていた。東京学芸大教育学部1年の河野菜月さん(19)は「商店街では丁寧な説明を受け、人の温かさが伝わった。小学生との交流もあり貴重な経験となつた」と話していた。